**街頭演説参考例　　コロナ問題、党の「緊急要請」を中心に　　２０２０年１２月１１日**

**みなさん、こんにちは。日本共産党です。この場所をお借りしまして、日本共産党からひとこと訴えさせていただきます。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いします。**

**いま、コロナ感染の急拡大で、重症者が増え、医療体制はひっ迫し、一部では医療崩壊がはじまるという重大局面を迎えています。このままでは、救える命も救うことができなくなります。**

**しかしこの事態にもかかわらず、菅政権は、まともな対策もとらず、逆に「ＧｏＴｏキャンペーン」の延長を発表するなど、およそ考えられないことをすすめています。しかも、野党の反対を押し切ってさっさと国会を閉じてしまいました。**

**さらに驚くのは、先日、自民党と公明党が、７５歳以上の高齢者の医療費の窓口負担を現在の１割から２割に引き上げる方針を決めたことです。コロナ感染拡大のもとで、いかに高齢者の命と健康を守っていくのかが問われている最中（さなか）に、高齢者の医療費負担の大幅引き上げを決定するなど、これも「常軌を逸している」としか言いようがありません。**

**みなさん。こうした血も涙もない冷酷な政治をすすめる菅政権…一刻も早く変えていこうではありませんか。日本共産党は、野党のみなさんと力を合わせて政権交代を実現し、野党連合政権をつくり、何よりも命・くらし、営業を守る政治をすすめていきます。力を合わせて、新しい政治を切りひらいていこうではありませんか。**

**みなさんいま、政治に求められている最も緊急で重要なことは、新型コロナの感染爆発からどうやって国民の命・くらしを守っていくかにあります。昨日、志位和夫委員長は政府に対して「緊急申し入れ」を行いました。**

**一つは、いま危機的事態にある医療機関を守ることです。減収補てんなど、医療従事者の処遇改善、体制強化のために直接的な支援を決断することを求めています。**

**二つは、医療機関や高齢者施設などへの大規模なＰＣＲ検査をすすめることで、そのために地方負担でなく全額、国の負担でおこなうことです。**

**三つは、「年を越せない」と悲鳴が上がっている事業者の経営を守ることです。資金繰り、雇用維持、事業継続への支援に全力をつくすことです。**

**四つは、年末年始の生活困窮への相談と対応の体制をつくることです。生活保護、生活福祉資金の特例措置の積極的な活用をよびかけ、誰一人路頭に迷うことがないように対応することです。学生のくらしもひっ迫しています。緊急な支援が必要になっています。**

**五つは、「ＧｏＴｏ事業」を中止し、観光・飲食業などへの直接支援をおこなうことです。持続化給付金や家賃給付金などは継続的に行う必要があります。**

**みなさん。今こそ声をあげて、これらを実現させていこうではありませんか。日本共産党はその先頭に立って頑張る決意です。**

**日本共産党の立党の精神は、国民の苦難を軽減し、いのち・くらしを守ることにあります。コロナ感染拡大のもとで、みなさんのなかにたくさんの不安、困りごとがあると思います。「困ったときには共産党」…どうぞ、お気軽になんでもご相談ください。いっしょになって解決に全力をつくしていきます。**

**最後になりますが、日本共産党が発行しています「しんぶん赤旗」のご購読をお願いするものです。「桜を見る会」疑惑も、日本学術会議問題も、社会問題になったのは「しんぶん赤旗」のスクープからでした。他の新聞にはない、国民の視点に立った新聞であり、新しい政治への展望を示す新聞です。コロナ禍のもとで「命綱」の役割も果たしている新聞です。　どうぞ、この機会にご購読されますことをお願いし、訴えを終えたいと思います。ありがとうございました。**